



コロナ禍での学校生活

1月もあつという間に過ぎようとしています。11都府県の緊急事態宣言が続いており、全国的にも、新型コロナウイルスの感染拡大がなかなか止まりません。五島市も少しずつ感染者の数は少なくなっています。が、まだまだ予断を許さない状況です。本校では、2月7日までの対策として、部活動や学校行事等の中止や延期、教科指導における長時間の近距離での活動の自粛等を行っています。例えば、保健体育の授業において、本来であれば柔道の実技指導の予定でしたが、接触する活動を避け、柔道の理論や歴史の学習を中心とした授業をしたり、カリキュラムを屋外競技のソフトボールに変更したりしています。今後



＜ ある日の体育の授業(ソフトボール) ＞

も、五島市の感染状況を見て、対策を變更しながら効果的な教育活動を行っていきます。

とここで、皆さんは世界中の感染症の中で、根絶したものを御存知ですか。数ある感染症の中で人類史上初めてにして、唯一根絶に成功したものは、「天然痘」だそうです。天然痘ウイルスは、日本でも何度も大流行を重ね、東山天皇や孝明天皇の死因にもなっており、吉田松陰や夏目漱石も顔にあばたを残したと言われています。この天然痘の根絶のために立ち向かった日本人が、医師の蟻田功先生です。蟻田先生は、WHOで天然痘対策チームのリーダーとして活躍され、アフリカやインドなど、たくさんの方に活躍され、種痘という薬を多くの人に打たれました。そして、20年近く、天然痘根絶のために力を尽くしました。世界は広いのでなかなか天然痘を根絶できませんでしたが、「人生の価値はやる気で決まる。あきらめることは最も無意味なことだ。だから私は作戦を続けたい。」と最後まであきらめず、ついに1980年に天然痘を世界から根絶させました。

私たちも、今はきついですけれど、何事もあきらめず、自分ができることを実践したいですね。

新春子ども和歌コンクール

崎山地区新春和歌コンクールの入賞者が決定しました。例年百人一首大会時に同時開催していましたが、今年は和歌の募集のみ行いました。全校生徒が応募し、出口志智雄先生を中心に入賞作品を選考していただきました。優秀賞の中の一首は生徒投票によるものです。どれもふるさと崎山を意識した作品です。

最優秀賞

食わんかな近所のおっちゃんを持つてくる
崎山で取れた宝の数々
1年 藤尾朗人

優秀賞

あの山は形を変えず立っている
ふるさと人の思いで乗せて
3年 入江柚月

学校の窓から見える冬景色
今日は一段きれいだな
3年 境脇愛十

さつきやまのじんじばんばがいちちよった
きばつけていけよおあんなかけんなあ
2年 藤尾依千乃

すれちがい元気を与えるその言葉
飛び交うあいさつみんなが笑顔
1年 横山 愛

特別賞

五島市は癒しの空間お気に入り
世界で一番絶景なところ
2年 原田唯香

絆賞

ラントレを友と鬼岳目指します
きつい時こそ声かけあって
1年 清水利輝

「大切にしたい 五島弁」

先日の長崎新聞に、「五島弁かるたを制作した」という記事があった。これは、崎山にも縁のある地元の市民グループが、五島弁を知らない若者が増えていると感じ、「楽しみながら五島弁を使えるように」とかるたを作ったという。学校にも寄贈されてきたので、私も読んでみたが、わからない五島弁も多々あった。五島弁は奥が深いことを実感した。



以前、大学受験のため、友人と福岡のホテルに宿泊した時、「鹿児島の方ですか。」と声をかけられた。どうもイントネーションが鹿児島弁と似ているらしい。大学時代は、「今、何て言った？」と聞き返されたことも多かった。しかし、最近ではほとんどそういうことはない。「私自身が以前より使わなくなったからなのだろう。」と少し考えさせられた。

たまに、子どもたち同士の会話の中に五島弁が聞かれると、癒されるのは私だけだろうか？

「いこわっしやれ ひがなひいじゆ きつかったな」